資料２

第3期都市再生整備計画における事後評価ついて

令　和　7　年　2　月　3　日　（　月　）
令和６年度第１回長井市都市計画審議会

長井駅前地区都市構造再編集中支援事業（山形県長井市）

◆事業概要：中心市街地の機能強化のため、長井駅前に子育て世代活動支援センターと図書館からなる複合施設を整備し、地域の医院や介護事業との連携を強化した公立置賜長井病院を整備することにより、市内外からの来訪者を誘導して都市活力の強化を図った。あわせて、長井駅周辺への回遊性を高めることにより商店街の活性化を図り、コンパクトで持続可能な都市の再構築を推進した。

◆事業主体：長井市　◆面積：56．3ha　◆交付期間：平成31年度～令和5年度　◆立地適正化計画公表時期：平成31年3月

◆全体事業費：9，781．8百万円　◆交付対象事業費：7，433．9百万円（国費：3，716．9百万円）　◆国費率：50%

⑤複合施設（図書館・子育て世代活動支援センター）

⑦誘導施設（長井病院）

⑧誘導施設・高次都市施設（すみれ学園）

⑥高質空間形成施設（歩行者支援施設）

①道路（長井駅前線）

②道路（本町西1号線）

③道路（市道西裏線）

④道路（市道本町東線）

地域生活基盤施設（情報板（6基））

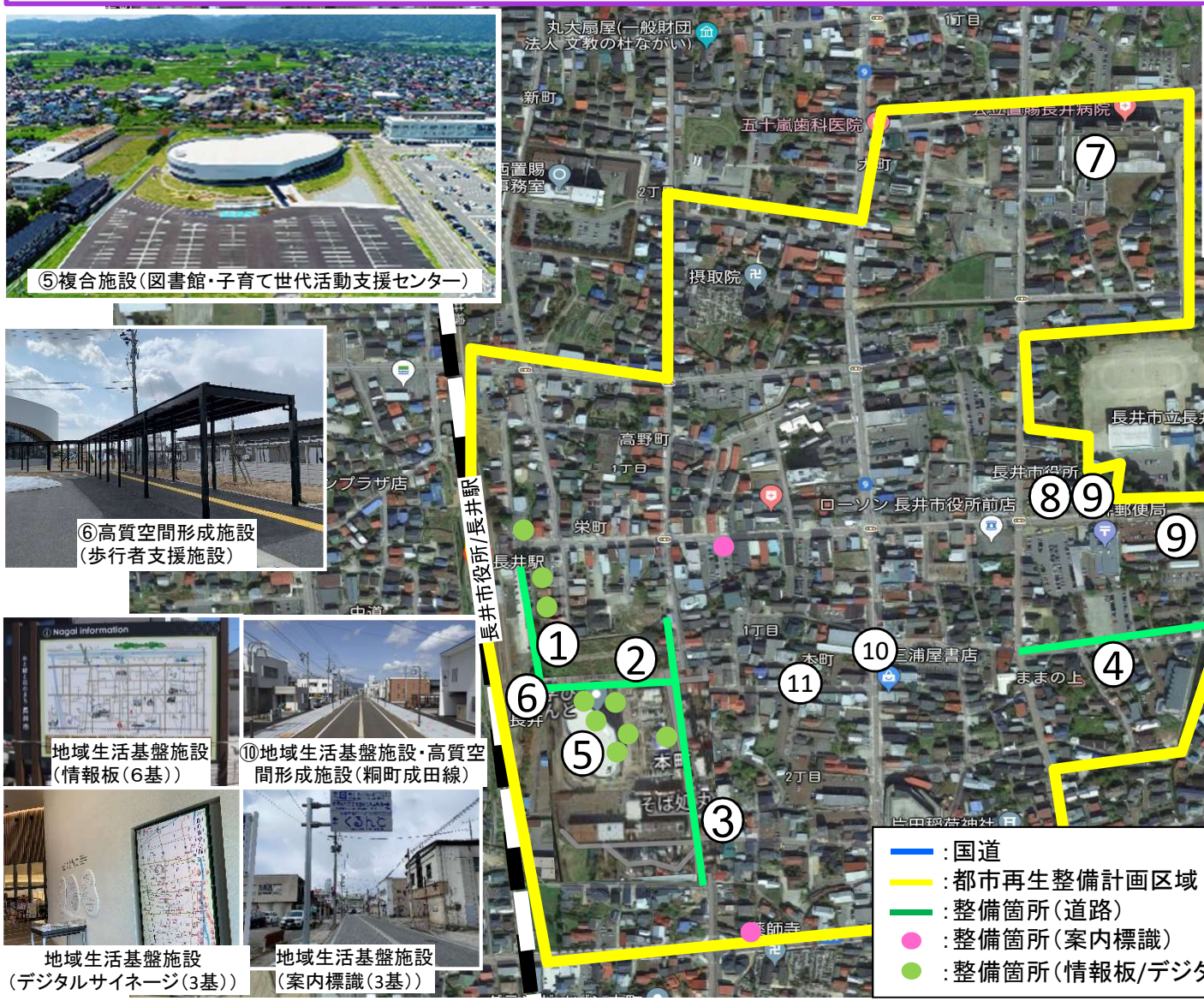
⑩地域生活基盤施設・高質空間形成施設（糀町成田線）

地域生活基盤施設（デジタルサイネージ（3基））

地域生活基盤施設（案内標識（3基））

⑪高質空間形成施設（街路灯（本町西1号線））

⑨地域生活基盤施設（多目的広場）



まちづくりの課題

- ✔ 安心して子どもを産み育てるために必要な都市機能の不足
- ✔ 老朽化した公共施設の維持管理費の増大と更新に要する財源の不足
- ✔ 将来にわたり安心して住み続けられる医療連携施設の不足
- ✔ 高齢者や児童が安全に歩行することができない道路整備状況

高次都市施設
（子育て世代活動支援センター）

中心拠点誘導施設
（図書館）

中心拠点誘導施設（病院）

道路（市道西裏線）

大目標

みんなで創る　しあわせに暮らせるまち　長井
～人にぎわい　心かよう　水のふるさと　～

目標

目標1　未来を担う心豊かな子どもが育つまちづくり
目標2　健やかにいきいきと暮らせるまちづくり
目標3　資源を活かし活力を生み出すまちづくり

指標

指標1　子育て世代活動支援センター年間利用者数
指標2　図書館年間入館者数
指標3　病院患者の年間紹介率
指標4　中心市街地における歩行者通行量（休日）
指標5　公共交通（鉄道及びバス）利用者数

■ 目標の達成状況

	指標	単位	従前値（H29）	目標値（R5）	評価値（R5）	目標達成度	目標達成度の理由
1	子育て世代活動支援センター年間利用者数	人/年	7,550	34,730	**189,203**	○	市内だけでなく市外からの利用者が想定以上に多く、大幅な増加となった。
2	図書館年間入館者数	人/年	41,034	73,861	**172,229**	○	多世代の方が施設を訪れ、従来の図書館には無かったサードプレイスとしても利用される方が大幅に増えたことが入館者数の増加につながった。
3	病院患者の年間紹介率	%	30.9	36.7	**34.7**	△	コロナウイルスの影響もあり目標値には届かなかったが、1年以内に達成する見込み。地域の医院や介護事業との連携が強化され紹介率を増やすことができた。
4	中心市街地における歩行者通行量（休日）	人/日	190.0	437.0	**316.0**	×	中心市街地の通行量は増えているものの、くるんとや旧長井小学校第一校舎などの来館者は車による移動が大半で、中心市街地への徒歩での回遊には繋げられなかった。
5	公共交通（鉄道及びバス）利用者数	人/日	（鉄道）1,037.8 （バス） 96.2	（鉄道）976.4 （バス） 90.2	**（鉄道）1,222.3** **（バス）115.6**	○	長井駅周辺の道路や駐車場の整備、くるんとの整備により、長井駅における鉄道とバスの利用環境が改善したことや、市営バスの休日運行やくるんと周辺での定期的なイベントなどにより利用者数を増やすことができた。

※指標3、4については来年度担当部署に数値を問合せし、フォローアップを行います。

■その他の数値指標　⇒　達成できなかった指標3と4を補完

	その他の数値指標	単位	従前値（H29）	評価値（R5）	本指標を取り上げる理由
1	要介護（要支援）認定者数	人	1,619	**1,577**	公立置賜長井病院を中心とした介護予防等の取り組みにより、要介護（要支援）認定者数が減少している
2	中心市街地の現状への満足度：中心市街地に住んでみたい（住み続けたい）と思う人の割合	%	23.1	**27.6**	中心市街地における安全施設・利便施設の整備により、現状への満足度や更なる活性化を期待する潜在的な意識が増えている

■事後評価原案の公表について

公表方法： 市ホームページにより公表、建設課窓口において閲覧
公表期間： 令和6年11月12日～12月16日
周知方法： 市ホームページ及び市広報（12月号）で公表している旨を掲載

［公表により得られた意見］

〇長井市は国の補助を上手に活用して事業を行っている。借金をしてと悪く言う人もいるが、必要なハード整備であり後世に残る素晴らしいまちづくりができていると思う。

〇庁舎と駅が一体化され、隣接に子育て施設と図書館もでき駅前がとても魅力的な空間になっておりうれしく思う。また、最近ではくるんと周辺でさまざまなイベントも行われており、にぎわいが生まれつつあると思う。今後も、まちなかウォーカブルという視点から歩きたくなるまちづくりを進めてもらいたい。

〇長井海田線の街路整備について事業認可されラウンドアバウトの整備も決まり、これから駅前通りがどのように変わっていくのか楽しみであるが、民間だけでは難しいところも多い。また国などの補助を活用して賑わいのあるまちづくりをしていってほしい。

〇市役所が長井駅に移転し、長井駅も新しくなりくるんとも出来て中高生も高齢者も気軽に交流できる居場所が増えた。これを起爆剤に民間の方にも頑張っていただいて中心市街地に集客していってもらいたい。

〇くるんとが出来て、週末は市外からの子連れの来訪者がかなり増え、県外ナンバーも多く見かけている。くるんとを核として長井市を知ってもらい、長井市に何度も足を運んでもらい、移住に繋げられるよう魅力を発信していってもらいたい。

■評価委員会の審議

委員構成： 長井市都市再生整備計画検討委員（加藤俊昭山形工科短期大学校住居環境科特任教授、長井地区長連合会会長、長井商工会議所女性会会長、長井商工会議所青年部会会長、長井商工会議所工業部会会長、長井市かわまちづくり推進協議会会長、長井市宅地開発事業計画検討委員会副委員長、 長井市景観審議会委員）
実施時期： 令和6年12月23日

［委員会の意見］

〇指標4中心市街地における歩行者通行量に関して、目標値を決めた時に具体的な計画はあったのか？その時に決めた活動がどうだったのか、その反省がないといけない。やったことに対して結果がどうであったのかを次の計画に反映させることがPDCAを回すことだと思う。
→当初のプランとしてまちなか活性化事業補助金の制度があったが結果が思わしくなかったため、現在にぎわい創出事業などにより取り組んでいる状況である。

〇中心市街地に行って何をして欲しいのか？くるんとに来た人が中心市街地に行ってくれないというのは何を目的に来た人を求めているのか？
→まちなかの経済活性化を目標としている。そのため歩く人を多くしたいということである。

〇指標1子育て支援センター年間利用者数に関して、市内外の内訳は把握できていれば詳しい分析ができると思う。引き続きリピーターを離さないような施設運営、イベントなどを行いまちなかの方へにぎわいを誘導していければと思う。

〇くるんと内にまちの案内をぜひ整備して欲しい。長井にはどういうものがあるのか興味をそそるような、まちなかに誘導されるようなものを整備いただきたい。

〇まちなかを活性化させていくには民間の方の協力が必要になってくる。行政側として民間の方が何を欲しがっているのかを把握して情報やデータを提供できればもっと良くなると思う。

〇事業の検証をしっかり行って、お金だけ使って終わりとならないようにきちんとフォローをお願いしたい。

〇若い人たちにまちづくりの想いを伝えて、行政とか市民とかということではなくみんなで努力していかなければならないと思った。

今後のスケジュール

（令和7年3月中旬） 都市再生整備計画検討委員開催、国に事後評価結果の提出、事後評価結果の公表